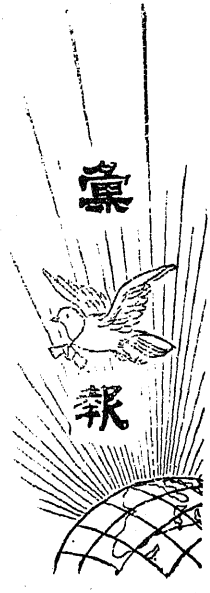
ます、又此山の麓には南龍社がありまして南龍院殿、即ち賴宣卿を祀りてあります。

和歌浦の名所はざつと之位でございます。御遊覽がすみましたらば、和歌浦町にでも、又はもどつて和歌山市にでも、御一泊おやすみなすつたがよろしいでせう。

いかがでした。三景に次ぎますかどうでございますか、御案内のしかたが下手でしたから、折角の和歌浦の價値を落したかも知れません。どうぞ、もつと〳〵景色のよい處と御想像を願ひます。

"Es ist nicht alles
Gold, was da glänzt.

輝くものは總て黄金にあらず



◉學事集會

●女子高等師範學校　▲附屬高等女學校に於ては先月六日第二回生徒演習會を催うし、校長主事職員等臨席生徒の演說、音樂、朗讀等あり頗る盛會なりし由▲同本校生徒は同月十四日如蘭會音樂部を開き、ピアノ獨奏、唱歌合唱、職員唱歌等あり音樂學校の島崎赤太郎氏のオルガン獨奏北村季靖氏の勸進帳等もありて之れ亦中々の盛會なりきと云ふ▲同終業式は廿四日を以て擧行したりしが▲同日保姆練習科卒業式擧行、學校長より今回卒業

せる十二名の生徒に向つて夫れ〳〵卒業證書を授與せられ懇篤なる訓辭ありきといふ▲來る四月入學を許可すべき生徒の試驗は本月十三日より各地方廳及本校に於て擧行すべしと。

●東京府第三高等女學校　東京府參事會に於ては愈〻本年四月より、授業を開始することに決したりしが、校舍の新築は來年までかゝるが故に、當分は假校舍に於て、授業すべき考へなりといふ。

●日本女學校　西澤之助氏校長、三輪田眞佐子刀自の學監たる同校は、生徒數殆ど六百名に達し頗る盛況なるが、校舍の建築方危險の恐ありし由にて、文部省より注意せられ、客年中手入中なりしが、本年はもはや完成せしならん。

●共立女子職業學校　同校に於ては、毎年畏き邊よりの仰せに由り　生徒の製作品を叡覽に供ふべき光榮を被むり來りしが　客年十一月二十八日にも、同樣の御沙汰を被むり一同天恩の深さに感佩して早速御命を拜し奉れりといふ。

●東京府第一高等女學校談話會　同校は去る廿四日を以て終業式を擧行せしが、仝日引き續き午前九時より第二學期談話會を催ふせしが、一年より五年に至るまで或は讀本講讀、談話、朗讀、會話、即席揮毫、英文暗誦、英語對話唱歌等あり、頗る盛會にて正午散會せりと云ふ。

●東京音樂學校　▲同校秋季演奏會は先月七日八日を以て仝校奏樂堂に於て開會、兩日とも聽衆にて立錐の地なきまでの盛況なりしが、仝校生徒の技倆は月に日に進歩發達の跡著るしきまでに巧妙に至りつゝありと云ふ▲同聲會幷にペートフェン會は同月廿一日午後五時より一ッ橋通り分教場

に於て催うしたりしが、これ亦中々の盛會なりさとのこと。

●神戸保育會　先月七日同市頌榮幼稚園に於て開會、出席者百餘名、ミス、ヒユースの適切なる演舌あり午後四時閉會したりし由。

●女子學術講習會　東京府教育會にては、本府小學校教員補充の一方法として其筋よりも補助を得て教員傳習所を設け、目下五十餘名の男生徒三百餘名の女生徒を教養しつゝあるが、更に又女教員たるに必須の學力を補修し、兼て一般女子の爲めに新智識を啓沃せしむる目的にて、本年二月より女子學術講習會なるものを開設し、理科（動物、生理）家事の二科目に就き、日曜毎に午前九時より三時間づゝ授業し、三ヶ月間にて結了する豫定なりと云ふ。尙結了までの講習料は金壹圓五拾錢にして之を二回に分納するも妨げなしと、又前記傳習所のうち、本科准教員傳習所は今回學級數を增加せしにより臨時生徒を募集中なり、同所學科目は修身、教育、國語、漢文、歷史、地理、算術、習字、体操、裁縫の諸科にして修業年限は一ヶ年授業料は七拾五錢なりとのことなり。

◉筆の雫

●香川縣師範學校附屬小學校女生徒の改良服

同校にては這般女生徒の服裝を改良して筒袖となし、髮はなるべく垂髮とせしめしに、此の頃は全校兒童悉く筒袖となり頗る輕快に活潑なる運動をなしつゝありとのことなるが、此の改良服も未だ完全なるものにはあらず將來は一層改良を要すべき點もあらんが、目下の處習慣等もあれば之等を

大に斟酌して、單に袖の部分の改良に止めたるものにして家庭服學校服といふが如きものを製せしめざる樣注意せしものなりと同校の主事は語られたる由。

●風俗改良會の改良事項　風俗改良會が、先月十八日の會合に於いて、決定したる改良事項は、目今の時弊にわたれるもの多く、即ち、左の如くなりといふ。

▲訪問は、午前は九時より十一時、午後は二時より四時（日の永き季節は五時）に至る迄を通例とす

▲訪問の際の談話は、冗長に涉らず。時間は、短少なるべし。

▲訪問には名刺を出し、面會せざる時も之を遺し置べし。

▲訪問者には、茶菓を出さゞるを通例とす。

▲業務上の訪問には、餘事を語る可からず。

▲訪問者の名刺は、白色の紙質を用ひ、裝飾を附す可からず。

▲訪問を受けたるときは、勉めて、速かに面會をなし、徒らに、その人を待たしむることなかるべし。

▲人と對話するに、野卑の言葉を用ひざる樣注意すべし。就中、猥褻の事は堅く之を愼むべし。

▲文章演說對話に於いて、人の氏名を呼捨にせざるを善とす。

▲社會共存の義に由り、他人の妨害をなさゞることを勗むべし。之を例せば、▲道路の通行には左側を通り、人道車道の區別ある場所に在つては、必ず、人道を取るべし。▲途上に於いて、車馬又は歩行者を追越さんとする時は、必ず、其の右方に出づべし。又、後方より警聲を掛けられ、之を避けんとする時は、必ず、左方に於いてすべし。▲途上に佇立し、立談すべからず。▲途上に出來事ある時、其の場所に群集し、通行の妨碍をなさゞる樣心掛くべし。▲總て人に接し、又は戶外に出づる時は、見苦しき服裝をなさざる樣注意すべし。▲途上又は船車中に在りては、容姿を端正にすべし。船車中に在りて、無作法なる態度をなし、座席を廣く橫領し、或は、酒宴に似寄りたる事をなし　總て他人の迷惑を省みず、我儘の行爲あるべからず。

▲渡船場乘車場にて、先を爭ひ、混雜せざる樣注意すべし、

▲劇場寄席等にては、極めて靜肅にすべし。多人數集會の席にて、濫りに私語をなし、新聞の音讀等をなす可からず。

▲老幼婦女に對しては、及ぶだけ力を添へ、之を扶助することを忘るべからず。

▲公衆の眼に觸るゝ場所に設置する時計は、努めて、其の時刻を正確にする樣心掛くべし。

▲回答を要する文書に對しては、努めて、速に返事すべし。

▲案内狀は、成るべく、一時間以前に送るを善しとす。

▲酒杯の獻酬を廢止すべし。

▲饗應の飲食物は、其の席に於いて、飲食する者に止め、總て、客人の持還り、又は、其の家に送り屆くる者なきを善しとす。

▲虛飾無用の物品贈與を廢すべし。

▲會葬の際は、愼肅なるを要す。葬儀の節、生花、造花、放鳥等の贈物を爲さゞるを善しとす。會葬者に飲食物を差出し、又は、其の馭者、馬丁、車夫等に、飲食物金錢等を交附せざるを善しとす。

▲旅店、其の他の茶代は、一切廢止せしむる事を勉むべし。

●婚禮千代かがみ　著者は石井泰次郎氏なり、氏が禮法料理故事等に精通せるは何人も熟知する處、前に紐結包物標本を著はして大に好評を博せられたり本著は主として實用禮法を主として編定せられしものゝ由新年早々發刊すべしとのことなり。

●赤十字社々員　昨年九月の調査の同社員數は

名譽	二十九人
特別	三千四百五十八人
正	七十七萬三千八百四十三人
贊助	一萬四千百八人
佩有功章	二百七十六人
年據金義務結了者	正　五萬千八百七十六人 贊　千七百五十五人

にして、總計七十七万一千四百四十三人なりと。

●マツケルマン女史の演說　米國婦人同女史は先般來大坂土佐堀青年會館に於て、數回の講演を續けられし由なるが、女史が、「大日本帝國の偉人と其偉業」と題して述べられたる要旨は、先づ偉人として、殊に女性の神功皇后を始め奉り、今上陛下の盛業を稱揚し、次いで伊藤大隈二侯伯に及び、更に日本人の長所として團結の力に富み忍耐强きを贊し、文明の事業駸々として進歩せることを說き、然るにかゝはらず常に財政上の困難を來せるは主として、其實力の世界に知られざるに在り實力知れさへすれば我北米合衆國の如き

八十億の資本を餘して其使途に苦める國柄にては、資本家の爭ふて資を日本に投ぜん事當然なれば、明後年の博覽會を機會に日本を世界に廣告するの手段を取ること必要ならん、就ては豫め世界の要處々々に人を派して口に筆に日本風土の美、實力の發達國民の長所等を吹聽して、歐米人を日本に誘ふことを心掛くべし、是れ殊に大阪人士の最も注意すべき所ならんと說き、其他合衆國の盛運を今日に見るは女子の智德發達せしがためにて五十年以前には米國中に敎育ある女子十餘人に過ぎざりしなれば、日本も今後廿五年を經なば非常なる進步を見ん云々と結び、拍手大喝采の中に講演を終へしとの事なり。

海外彙報

●米國の子供の身體測定の結果

▲頭の周圍の成長と共に精神上の働きが成長す▲勞働社會ならざる階級の子供は、勞働社會の子供に比較し其頭の周圍大なり▲男子の頭の周圍は女兒の頭の周圍より大なり、然れども黑人種に就ては女兒の頭の周圍が却て男兒より大なり▲黑人種の女兒は各年齡とも白人種の女兒に比し其頭の周圍大なり▲女兒は男子に比し、或る一定の時期間、其身體大にして且重きことは記憶すべき事實なり▲白人種の子供は之れを黑人種の子供に比し單に起立したる時に丈の大なるのみならず、坐したる時に於ても一層大なり然れども黑人種の子供は白人種に比し其重量大なり▲穎敏男兒は穎敏ならざる男兒に比し通常身體大且重なり▲穎敏なる黑人種の男兒は穎敏ならざる黑人種の男兒に比し大なるも坐位に於ては穎敏ならざる男兒の方却て大なり▲女兒の大さ及重さの大なることは勞働社會に在ては勞働せざる社會に比較し殆んど一ヶ年の差あり▲勞働せざる社會の子供は勞働社會の子供に比し通例坐位に於ても大且重なり▲女兒は男兒に比し動學大なるものなり▲勞働社會ならざる子供は、勞働社會の子供に比し、修學に當り其能力大なり▲雜種の人種に就ては、精神上の働きは良好ならざるものゝ如し▲女兒は男兒に比し、修學に當り能力平均す、故に女兒に就ては、其働きが同一なり▲年齡の長すると共に、多くの學科に付ては不熱心となり

從て点幅係京の質を帶ぶ、但燕鳥手工等の器械的の仕事は例外なり▲黑人種の子供は白人種の子供に比し、無働長ずると共に學科に熱心さなる

▲勞働社會ならざる子供に付ての結果　▲勞働社會ならざる男兒は勞働社會の男兒に比し、羸弱なるもの多し▲男兒は女兒に比し、言語の不充分なること多し▲男兒は女兒に比し、怠惰にして制御し難きものなり▲頭敏ならざる男兒に創御し難きもの多し▲子供の通常ならざる出來事は、其發育時期に於て最も多し▲通常ならざる顯象を有する子供は他のものに比し大き重さ及頭の周圍に於て劣れり

●米國前大統領の死と喫煙　當時醫師の診斷せし處によれば大統領危篤の際、其脈膊の極めて微弱なりしは、嘗て氏が非常の喫煙家なりしに因ると云ふ、之れが爲め幾分か其死を早からしめしなるべしとすれば、喫煙の害亦恐るべきなり。

新刊書紹介

▲國語綴り方　全一冊　堀越得次郎 土屋權四郎 共著

本書は小學校國語科に於ける綴り方に關する理論及實際を指示せられたるもの、從來小學校に於て最も其方法の困難を感したる作文科、即綴り方にてありしなり。本書は改正小學校令に準據して最も詳密に其方法を記載論定し、且つ尋常一年より高等四年に至るまでの數多の實例(言文一致)を掲げ悉く之に細密なる注意を附加せられたるなど、殊に實地に當る人の便宜とする所なるべく從來本書に類する數多の著書中最着實良好のものたるべし(定價四十錢　發行所　金昌堂)

▲もとのしづく　全二冊　三宅龍子編

我が婦人と子ども愛讀譜姉は、客年數號に渡りて下村教授に依りて紹介せられたる奇代の女傑野村望東尼の人となりを記憶せられしならん。本書は實に彼の望東尼の詳傳なり。多趣多樣なる尼の事蹟は花甫女史流麗の筆に依りて寫さる、安んぞ面白からざるを得んや、製本優美印刷鮮明、年玉の贈品としても最妙なるべし

(定價各六十錢　發行所　金港堂)

新刊雜誌

●點を附したるは婦人雜誌なり

▲日本婦人	第二五號	帝國婦人協會
▲大八洲雜誌	卷一八五	大八洲館
▲東京教育雜誌	第一四四號	同　發行所
▲令德	第三卷第九	令德會本部
▲衛生談話	第一一號	通俗衛生茶話會

▲婦女新聞	毎號	仝社
▲牟婁新報	毎號	仝社
▲山梨教育	第八四號	山梨教育會
▲越佐教育雜誌	第一〇七號	仝社
▲岐阜縣教育會雜誌	第八六號	岐阜縣教育會
▲新文	第一卷第八號	言文一致會
▲女子の友	第一〇四、五號	東洋社
▲女鑑	第二四二號	國光社
▲日本婦人新聞	第一二號	仝社
▲學生倶樂部	第二卷第三號	育成會
▲家庭	第一二號	仝發行所
▲教育時論	第五九九、六〇〇號	開發社
▲教育學術界	第四卷第二號	教育學術研究會
▲北海道教育雜誌	第一〇六號	北海道教育會
▲婦人新報	第五五號	婦人新報社
▲うらにしき	第一一〇號	尚絅社
▲英學新報	第一卷第三號	英學新報社
▲下野教育	第一七八號	下野教育會
▲苦學界	第九號	苦學社

會報

第二十三常會　十二月七日午後一時三十分より女子高等師範學校附屬幼稚園に於て開會せり中村主幹の開會の辭次て文學博士松本亦太郎君のニユイングランドの一家庭に就て有益なる演說あり(本號說林欄に掲ぐ)鳩ぽつぽやょ子供お正月の唱歌遊嬉をなし隨意談話の後保姆合唱の唱歌にて午後五時閉會せり來會者は會員六十名同伴者十數名なりき

入會

東京ノ部

女子高等師範學校	新免義男
神田區駿河臺北甲賀町一〇釘宮剛方	喜地すが
牛込區横寺町二九	淺田つる
本所區江東小學校	山田きみ
小石川區指ヶ谷町一一七	有川ひさえ

地方ノ部

上野國多野郡小野村大字森新田	關口たけょ
長崎縣壹岐郡鯨伏村二十九番戸	長谷川阿喜

轉居

小石川區江戸川町一三龜岡方へ　師岡伸
横濱市北方町字西ノ谷八二四へ　福嶋ちか
東京市本郷區駒込追分町三〇へ　數藤きん

會費領收　自三十四年十一月二十七日　至三十四年十二月十六日

一金壹圓　自三十四年九月　至三十五年六月　羽田ゆき
一金貳拾錢　自三十四年十二月　至三十五年一月　師岡のぶ
一金六拾錢　自三十四年七月　至三十四年十二月　境さき
一金五拾錢　自三十四年十一月　至三十五年三月　岡田千代
一金六拾錢　自三十四年十月　至三十五年三月　吉住きく江
一金六拾錢　自三十四年十月　至三十五年三月　吉澤さも
一金三拾錢　自三十四年十月　至三十四年十二月　平塚さだ
一金三拾錢　自三十四年十月　至三十四年十二月　重田ふぢ
一金三拾錢　自三十四年十月　至三十四年十二月　坂本あき
一金三拾錢　自三十四年十月　至三十四年十二月　松岡さち
一金貳圓　自三十五年一月　至三十六年八月　柳きむ
一金五拾錢　自三十四年十月　至三十五年二月　吉田しう
一金六拾錢　自三十四年十月　至三十五年三月　千葉ひで

一金六拾錢　自三十四年十月　至三十五年三月　妹尾あき
一金六拾錢　自三十四年十月　至三十五年三月　安藤たみ
一金六拾錢　自三十四年十月　至三十五年三月　岩村ゐつ
一金六拾錢　自三十四年十月　至三十五年三月　服部たき
一金四拾錢　自三十四年十二月　至三十五年三月　山田きみ
一金壹圓貳拾錢　自三十四年十一月　至三十五年十二月　關口たけよ
一金三拾錢　自三十五年一月　至三十五年三月　北村いさ
一金壹圓貳拾錢　自三十四年七月　至三十五年六月　青木せい
一金七拾錢　自三十四年六月　至三十四年十二月　小向きみ
一金六拾錢　自三十四年十月　至三十五年三月　池邊千東
一金壹圓貳拾錢　自三十四年十月　至三十五年三月　西村さだ
一金六拾錢　自三十四年十月　至三十五年三月　沼村あい
一金五拾錢　自三十四年九月　至三十五年一月　脇屋なほ
一金五拾錢　自三十四年八月　至三十五年一月　脇屋よし
一金五拾錢　自三十四年三月　至三十五年七月　馬場さら
一金五拾錢　自三十四年八月　至三十四年十二月　金子忠平

一金六拾錢　自三十四年七月至三十四年十二月　平野まち
一金六拾錢　自三十四年十二月至三十四年十二月　杉本みさを
一金五拾錢　自三十四年十二月至三十五年二月　林田もと
一金五拾錢　自三十五年二月至三十五年六月　大橋いね
一金五拾錢　自三十五年二月至三十五年六月　稲葉かれ
一金五拾錢　自三十五年二月至三十五年六月　後藤りん
一金五拾錢　自三十五年二月至三十五年六月　内田かれ
一金五拾錢　自三十四年九月至三十五年一月　石川ふき
一金五拾錢　自三十四年十一月至三十五年三月　上遠野あい
一金三拾錢　自三十四年十二月至三十四年十二月　佐和山たか
一金三拾錢　自三十四年十月至三十四年十二月　工藤ふと
一金五拾錢　自三十五年一月至三十五年五月　若林みつ
一金五拾錢　自三十五年一月至三十五年五月　石山ひさ
一金四拾錢　自三十五年一月至三十五年四月　中桐確太郎
一金拾錢　三十四年十二月　有川ひさ江
一金六拾錢　自三十四年十一月至三十五年十四月　高橋いち
一金壹圓　自三十四年七月至三十五年四月　關しん
一金六拾錢　自三十四年十一月至三十五年四月　松田さし
一金五拾錢　自三十四年九月至三十五年一月　迎てる
一金拾錢　三十四年十二月　喜地すか
一金壹圓　自三十四年四月至三十五年一月　福島ちか
一金貳拾錢　自三十四年十二月至三十五年一月　長谷川阿喜
一金壹圓　自三十四年八月至三十五年五月　佐々木八千代

追つて本文中誤謬の箇所候はゞ御手數なから御一報下され度候。

會務整理の都合有之候に付き會費未納の方は至急女子高等師範學校附屬幼稚園内フレーベル會あて御拂ひ込み相なりたく候。

御ことはり

關根教授の「我國玩具遊戯につきての話」は本號に掲載すべき筈の豫告を致して置きましたが、編輯の都合により殘念ながら、出來ませんでした。次號には必らず掲載致します